

イラク石油省による講演会の開催結果

1. 日時 : 平成28年2月22日(月) 17:00~18:00(講演会) 18:00~19:30(夕食会)
2. 場所 : 帝国ホテル(講演会: 蘭の間、夕食会: 孔雀南の間)
3. 要旨

イラク石油大臣 Dr. Abdul-Mahdi が外務省の招聘により来日されたのを機に、当中東協力センターの主催により、イラク石油省による講演会を実施した。

まず、同石油大臣からは、イラクをはじめとする中東地域の複雑な情勢について触れ、イラクが世界を代表してテロと戦う中、多くの避難民が発生しており、これらに対する国際社会の努力や支援をいただきたい旨述べられた。また、最近の油価下落に起因してイラクが厳しい財政制約に直面する中で、日本・イラク間には長期に亘る経済的な友好関係が継続し、JICA 円借款による融資、JAPEX 等による油田開発への投資を評価していること、またイラク石油省としては、日本企業が直面する障害を取り除くためにあらゆる努力をするとのこと発言があった。

さらに、注目されるイラクの石油生産の動向と展望については、「油価低迷に苦しむ中でも、イラクは速いペースで生産量を上げ、今年1月の生産量は日量477.5万バレル、輸出量は日量388.5万バレルと、2013年と比較して大きな進歩を遂げている。また、今やイラクは世界有数の原油生産国、輸出国で、これは国際石油企業や日本企業の協力の下、イラク国民が努力を傾けた成果であり、これらの成果はイラクの殆どの地域で治安が良好であることを示している。イラクでは現在、経済多様化、農業、サービス業の開発、産業インフラの改善が行われており、また石油化学産業や、改修や開発を待つ多くの油田、ガス田など日本企業には大きな投資機会がある。製油所建設、輸送・貯蔵インフラのニーズも大きい。イラクは今後5年間で石油生産量を日量700万バレル、輸出量を日量600万バレルに引き上げる計画を有しており、今後15年間の間に3000億ドルの投資を必要としている。日本企業にとっては今後数十年の安定したエネルギー減の確保につながる事業となりうる。」との説明があった。最後に、日本との協力によりエネルギー関連技術をさらに発展させ、より環境にやさしい技術を開発していくことを願い、またイラクとしては豊富な石油資源量と開発コストの低さで今後も世界のエネルギー源として指導的な役割を果たしていく決意を表明して締めくくった。

続いて、Mr. Hilal イラク石油省計画局長にご講演いただいた。冒頭、日本の資金や技術が必要とするイラクと、イラクの原油を必要とする日本との重要な二国間関係について触れ、JICA 円借款プロジェクトや JAPEX が参画するガラフ油田開発について謝意を述べら

れた。また、イラクの巨大な原油・天然ガス埋蔵量に触れ、これまでのライセンスラウンド実施と国際石油開発企業の貢献と共に、イラク政府独自の努力によって油田開発も進めている旨、そして今後多くの製油所や関連インフラ開発が求められている旨、最後に、融資面、技術面から日本企業による更なる貢献に期待し、イラク側としても外国投資誘致のための法制度を進めていく決意を述べられた。

講演会終了後は、ビュッフェ形式の夕食会を催し、Dr. Abdul-Mahdi 石油大臣をはじめとするイラク石油省幹部と日本企業トップの方々が懇談する貴重な機会となった。



以上